

令和7年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立足立西高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 副校長、総務主任 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務主任、生徒主任、進路指導主任 総務主任 計7名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
区立小学校長、区立中学校長、PTA 会長、元 PTA 副会長、警察署少年係長、消防署出張所長、
地域町内会代表、同窓会代表、公的機関代表、教育関連機関代表 計10名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
第1回 令和7年 5月14日（水）内部委員7名、協議委員4名
協議委員依囑、委員紹介、評価委員の選出、学校経営計画
昨年度学校評価結果の活用、本校の現状と課題等説明、意見交換
第2回 令和7年11月19日（水）内部委員7名、協議委員6名
教育活動の現状と課題（報告）、生徒募集対策説明、地域との連携協力の在り方
学校評価の内容検討、意見交換
第3回 令和8年 2月18日（水）内部委員7名、協議委員5名
学校評価アンケート実施について、各分掌からの報告、質疑応答、意見交換
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
第1回 令和7年11月19日（水）内部委員4名、協議委員1名
学校評価アンケートの課題、評価の観点、基本方針の確認
評価内容・項目等の協議・決定、実施時期の決定
第2回 令和8年 2月18日（水）内部委員4名、協議委員1名
学校評価アンケート結果について、意見交換

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・12月	全校生徒	対象：555人	回収：522人	回収率：94.1%
・12月	保護者全員	対象：555人	回収：307人	回収率：55.3%
・12月	地域・住民	対象：10人	回収：6人	回収率：60.0%
・12月	教職員	対象：39人	回収：39人	回収率：100.0%
- (3) 主な評価項目
 - ・生徒
学習指導、生活指導、進路指導、体罰や暴言をなくす指導、健康・安全指導、校内美化指導、
学校行事への参加、部活動への参加、生徒会・委員会への参加、図書館の利用など
 - ・保護者
働き方改革の周知、地域社会への貢献、学校と保護者との連携、情報提供など(その他生徒と重複)
 - ・地域・住民
学校運営、ライフ・ワーク・バランスなど(その他生徒保護者と重複)
 - ・教職員
働き方改革の実施状況など(その他生徒保護者と重複)
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
 - ・学習指導が充実していると感じている生徒数が年々伸びている。
 - ・学校と保護者の連携については、肯定的な回答が8割を超えた。
 - ・働き方改革について、年度により答え方にばらつきが見えるが、肯定的な回答が徐々に伸びていることから、自らの働き方について肯定的に捉えようとする教員が徐々に増えている。
- (5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）
 - ・「生徒による授業評価」の実施し、全体として学習指導、進路指導への満足度の高まり、行事への積極的参加の割合の伸びがよい傾向であることが分かった。
 - ・どの設問にも、保護者の「どちらともいえない」という回答が多いため、学校の広報をさらに強化する必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・教育活動への理解とともに率直な意見を数多く得られた。教職員では気づかない問題点の提示により改善すべき点が明確になった。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・学習への期待として、「習熟度指導」「少人数指導」の充実
- ・生活への期待として、「部活動」「施設設備」の充実
- ・生徒指導への評価とともに、地域連携、地域連携へのさらなる期待

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・昨年度同様、地域・保護者の要望に対し、学校の様子を伝える頻度を上げる。
- ・行事や部活動の活性化や見える化を推進する。
- ・高校生が地域で活躍する場を増やし存在感を示せるようにする。

(2) 学習指導

- ・長期休業日中や放課後等の補習の充実を図る。
- ・基礎学力定着と大学進学対応の学力育成のため、習熟度別授業の検証・改善を図る。
- ・図書館活性化のため電子資料拡充・AI活用の提案あり、今後検討する。

(3) 特別活動

- ・部活動体験入部期間を設定し、1年生全員の加入率向上を図る。
- ・地域との連携に根差したボランティア活動への参加率を高め、さらなる地域貢献の機会を拡充する。

(4) 生活指導

- ・全教職員が共通理解をもち、毅然とした態度で生活指導にあたる。
- ・朝の正門指導による身だしなみ、遅刻指導を継続し、落ち着いた学校環境づくりを行う。
- ・自転車事故ゼロを目指し、雨天時のレインコート着用及びヘルメット着用を徹底する。

(5) 進路指導

- ・進路行事や状況を学校運営連絡協議会や保護者会で報告し、より理解を深める。
- ・教科と連携し、資格検定試験の重要性を説き、強力に推進する。
- ・2学年で希望進路を明確にし、受験や進路活動の準備を早期スタートさせる。
- ・探究的な取り組みとしてインターンシップを通して就業への意識づけや進路目標につなげる。

(6) 健康・安全

- ・交通安全指導を充実させ、生徒の殆どを占める自転車通学の安全を向上させる。
- ・セーフティ教室、防災訓練の実施により生徒の安全、防災意識の向上に努める。
- ・スクールカウンセラーの活用により、教育相談のさらなる充実をはかる。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 10人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
4	2					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 延 0人 企画調整会議 0回 延 0人

【成果】 実施していない。今後検討する。

- ・委員の意見を参考に、文化祭において地域との交流機会を設け、連携強化を深めた。

8 その他

- ・保護者のアンケート回収率を更に高めるため、質問内容を含め検討の必要がある。
- ・評価精度の更なる向上のため、学校公開の機会を増やしていく。